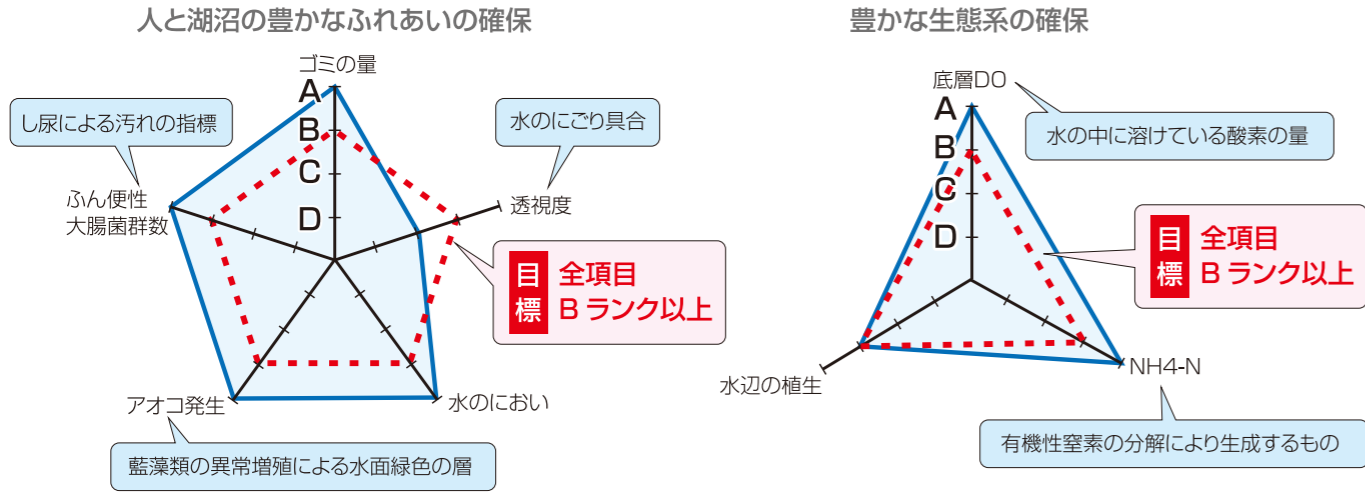


■調査結果の概要

○水生生物の調査結果

冬は確認できる生物の種類が減りましたが、テナガエビ、スジエビとモズガニは一年を通して生息が確認できました。その他、クロベンケイガニ、オイカワなどの魚、あわせて24種類の水生生物の生息が確認できました。

○新しい水質管理指標(案)による評価(青線は平成25年度の調査結果)



人と湖沼の豊かなふれあいの確保の視点

ランク	説明	イメージの	評価項目と評価レベル				河川管理者による測定項目
			住民との協働による測定項目				
			ゴミの量	透視度 (cm)	水におい	アオコ発生	
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	不快でない	アオコは確認できない	100以下
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上	水に鼻を近づけて不快なおいを感じる	肉眼では水面にアオコが確認できないが、水をくんで肉眼で確認できる	1000以下
C	湖沼の中に入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあっても不快である	25未満	水に鼻を近づけてとても不快なおいを感じる	アオコがうっすらと発生していて、水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの
D	湖沼の水の魅力がなく、湖沼に近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあっても不快である			アオコが湖面や湖岸の表面を広く覆い、かたまりもできている	

豊かな生態系の確保の視点

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		河川管理者による測定項目	住民との協働による測定項目	
		底層 DO (mg/L)	NH4-N (mg/L)	水辺の植生
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	沈水植物がたくさん確認できる
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	沈水植物がよく見ると確認できる
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とはいえない	3以上	2.0以下	沈水植物以外の水生植物が確認できる
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	水生植物が全くいない

注) 平成22年度から、透視度の評価方法が変更になりました。DO(溶存酸素)及びNH4-N(アンモニア性窒素)は、主に底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

上表による視点から評価しました。透視度はCランクでしたが、全8項目のうち6項目でAランク、1項目でBランクでした。

お問い合わせ先：清流ルネッサンスII佐鳴湖地域協議会

<http://www.sanaruko-net.com>

(事務局) ☎430-0929 浜松市中区中央一丁目12-1
静岡県浜松土木事務所企画検査課内
TEL 053-458-7266 FAX 053-458-7193
E-mail: hamado-kikaku@pref.shizuoka.lg.jp

☎432-8023 浜松市中区鴨江三丁目1-10
浜松市環境部環境保全課内
TEL 053-453-6144 FAX 053-454-0514
E-mail: kankyoho@city.hamamatsu.shizuoka.jp



佐鳴湖だより

佐鳴湖の水環境改善に向けた取り組み



水質汚濁が問題となっていた佐鳴湖では、発生源での汚濁負荷削減をはじめとし、地域のみなさんと行政が一緒になって水環境の改善に取り組んできました。

佐鳴湖は、全国の水質ランキングで過去、不名誉なワースト1を経験しましたが、これまでの流域一体となった取り組みにより着実に改善傾向を示し、平成21年度には初めてワースト5を脱却しました(平成24年度はワースト8位(全国194湖沼中))。

今後もこの改善傾向をより安定化させるため、これまでの流域一体となった取り組みの継続及び定着を図り、水質浄化に努めるとともに、水質のみでなく、生態系、親水利用、景観等も含めた総合的な水環境の向上に向けた今後の取り組みについて、地域の方々と一緒に検討しています。

継続及び定着を図り、水質浄化に努めるとともに、水質のみでなく、生態系、親水利用、景観等も含めた総合的な水環境の向上に向けた今後の取り組みについて、地域の方々と一緒に検討しています。

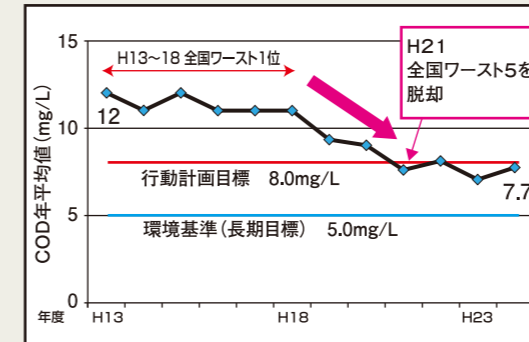
佐鳴湖の水質

佐鳴湖の水質はCOD(化学的酸素要求量)*1という指標で評価されています。

佐鳴湖をきれいにするため、平成16年に行動計画を策定し、「COD 8mg/L」を当面の目標と設定し、下水道整備や湖の泥のしゅんせつ、流域における啓発活動など、様々な活動を行ってきました。これら流域一体となった取り組みにより、その水質は着実に改善傾向を示し、近年では当面の目標を概ね安定してクリアするレベルまで改善しています。今後もこの改善傾向の安定化を図るとともに、将来的な長期目標「COD 5mg/L」に向け、これまでの流域一体となった取り組みの継続が必要となります。

近年の水質動向

佐鳴湖CODの経年変化



全国湖沼のワーストランキング (公共用水域水質測定結果(環境省水・大気環境局)より抜粋)

H18		H19		H20		H22		H24	
1 佐鳴湖	11	1 印旛沼	11	1 伊豆沼	9.5	1 長沼	11	1 印旛沼	11
2 伊豆沼	9.0	2 北浦	9.5	2 北浦	9.3	2 漆沢ダム	9.3	2 手賀沼	9.6
3 八郎湖	8.8	3 佐鳴湖	9.3	3 春採湖	9.2	3 常陸利根川	9.2	3 伊豆沼	8.8
4 印旛沼	8.6	4 常陸利根川	8.8	4 佐鳴湖	9.0	4 北浦	9.1	4 八郎湖	8.5
5 北浦	8.4	5 春採湖	8.7	5 常陸利根川	8.7	5 印旛沼外	8.9	5 北浦	8.3
						5 手賀沼	8.9
						8 佐鳴湖	7.7
						9 佐鳴湖	8.1	9 本明川(調整池)	7.6
								10 長沼	7.5
								10 霞ヶ浦	7.5

*1 COD(化学的酸素要求量)とは、湖沼の水質を評価する代表的な指標で、化学薬品を使って水中の有機物などを酸化させたときに、消費される酸素の量を示します。この値が大きいほど水中の有機物など(プランクトンやその死がいなど)が多いことを示し、水質が悪いと評価されます。

